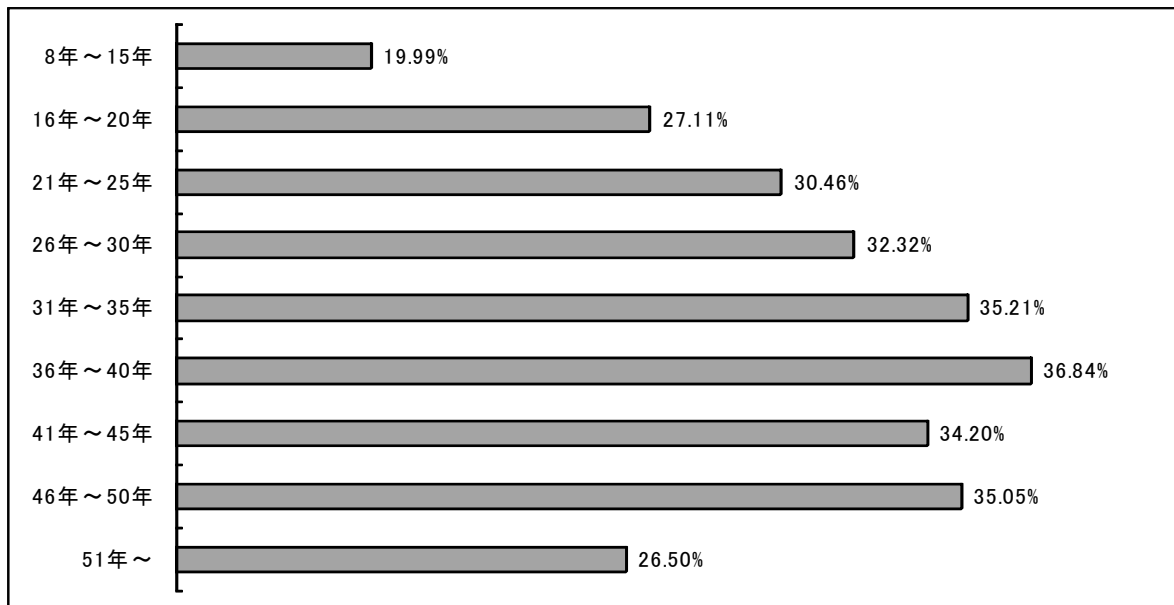


■ 築年数による補強工事実施率の違い

	工事あり	工事なし	工事実施率	合計
8年～15年	454	1817	19.99%	2271
16年～20年	450	1210	27.11%	1660
21年～25年	527	1203	30.46%	1730
26年～30年	755	1581	32.32%	2336
31年～35年	738	1358	35.21%	2096
36年～40年	438	751	36.84%	1189
41年～45年	238	458	34.20%	696
46年～50年	102	189	35.05%	291
51年～	62	172	26.50%	234
合計	3764	8739	30.10%	12503



■ 築21年～50年の住宅の耐震補強実施率は、3割を超える

築年数別に耐震補強工事の実施率を調査したところ、築36年～40年の建物が最も補強工事実施率が高く、築21年～50年の住宅の3割は補強工事を実施していることがわかりました。また、築50年を超えると急激に耐震補強の実施率が低下しているのですが、これは前項にもあったように建て替えのニーズが増えることが原因であると思われます。